

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ナガエツルノゲイトウ (*Alternanthera philoxeroides* (Mart.) Griseb.)

丸井英幹（エコロジー研究所／武庫川女子大学建築学部）
zero_nagae@ymail.ne.jp



現在は緑化植物として扱われることはないが、緑化に携わる方々に知っておいていただきたい情報としてヒュ科ツルノゲイトウ属のナガエツルノゲイトウを紹介する。南米原産の外来水草で、英名はアリゲーターイード (Alligator weed) である。かつてはアクアリウムプランツとして流通していたらしいが、現在は外来生物法で特定外来生物に指定されており、その輸入、栽培、植栽、保管、運搬、譲渡、販売等が禁止されている。違反すると個人であれば300万円以下、法人であれば1億円以下の過料もしくは懲役刑に処される。

ナガエツルノゲイトウはツル性で多年生の水草とされているが、水陸両生で乾燥には極めて強い。水域では爆発的に繁茂し、茎は中空なので水に浮き、長さは数m以上になってマット状に水面を覆ってしまう。水流や風で茎が切れるとマットのまま流れ、水利施設を詰まらせるなどの流下阻害を起こし、洪水被害をおよぼす恐れがある。農業の利水や草刈りなどに伴ってナガエツルノゲイトウが農地へ侵入してしまうと、養分を奪われたり、作物に覆いかぶさったりして減収や耕作不能となることがあり、農業への被害は計り知れない。

日本に侵入しているナガエツルノゲイトウは6倍体で、花は咲かせるものの種子がない⁵⁾。したがって、生えているものだけを駆除すればいいのであるから簡単に思える。しかし、目の前のたった1本でさえ簡単に駆除ができないというのが、この植物の駆除の難しさである。

ナガエツルノゲイトウは茎の節々から多数の不定根を出すが、その一部が主根状に発達することがある。兵庫県南西部の場合、最深で約50cmであったが、外国では1mを超えることがあるとされている⁴⁾。しかもこの根は、どこからでも新芽を出すことができる。このような性質があることから、除草するときにこの根が途中で切れてしまうと、残った根からまんまと再生できてしまう。茎は節が1つでもあれば再生できるため、一片たりとも残してはならない。

ではどうすれば駆除が成功する確率を高くできるだろうか。それには大きく分けて2つの方法がある。根を切らずに抜くことと、根を抜かなくてもいい方法をとることである。まず、ポンプ等で水を流し根に固着した土を外しながら掘り進むと上手く抜けることが多い。さらに、大型のポンプであればレンコン掘りのように水圧で掘り進むことも可能で

ある¹⁾。もう一つの方法は、遮光シートで覆ってしまうことである。ただし、ナガエツルノゲイトウには耐陰性があるので、遮光率100%のものを使う。ところが、農業用の防草シートにそのようなものは無いので、利水（遮水）シートで代用する²⁾。このシートはそもそも水があるところで使うものなので、ナガエツルノゲイトウの生育環境には最適である。遮光シートを張ると、ナガエツルノゲイトウと一部の多年草は地上部のみが一旦枯れ、その他の植物は速やかに枯死する。しばらくするとナガエツルノゲイトウが再生してくるので根元の位置が一目瞭然となり、抜くなり除草剤を散布する³⁾なりといった追加の駆除作業が格段にしやすくなる。駆除を完了するまで早ければ数ヶ月だが、最も条件の悪いところで3年を要する見込みである（現在、実証実験中）。

日本で初めて野生化が確認されたのは1989年で²⁾、特定外来生物に指定されたのは2005年である。外国の植物が日本の生態系に害を及ぼすかどうか判定するまでには多大な労力と時間を要するため、たとえ合法的な植物であっても、せめて環境省の「生態系被害防止外来種リスト」に該当するかどうかくらいはチェックすることを怠らないで欲しい。植物は種子を散布したり栄養繁殖したりして殖えようとするので、生態をよく知り、植えようとしている範囲内で管理できるか吟味し、万が一の場合は全て駆除することをあらかじめ想定した上で利用することが社会的責務であろう。

引用文献

- 1) 嶺田拓也・中井克樹・林紀男・丸井英幹（2020）農業被害をもたらす侵略的外来水草の対策と課題、水土の知, 88 (11): 3~7.
- 2) 村田源（1989）ナガエツルノゲイトウ尼ヶ崎に帰化. 植物分類・地理, 40: 178.
- 3) 芝池博幸・嶺田拓也（2019）水田畦畔におけるナガエツルノゲイトウの防除体系の検討、日本雑草学会大会講演要旨集, 58: 38.
- 4) Van Oosterhout E (2007) Alligator weed control manual. Eradication and suppression of alligator weed (*Alternanthera philoxeroides*) in Australia. New South Wales Department of Primary Industries, Orange, 90 pp.
- 5) 米澤隆弘（2017）日本におけるナガエツルノゲイトウ集団の起源と水系間移動プロセスの解明、河川基金助成事業、助成番号：28-5211-022, 21 pp.



写真1 上流から流れ込んだナガエツルノゲイトウのマット（合計 47 m³）の回収作業。この1年前までナガエツルノゲイトウは皆無だった。駆除が完了しない限り、ため池管理者は永遠に駆除を強いられ続けることになるが、人件費は誰もみてくれない。（加古川市 新川池）



写真4 ため池の水面（約 2,600 m²）を覆い尽くしたナガエツルノゲイトウ（洲本市 本田池）



写真5 駆除のため張られた遮光シート（洲本市 本田池）



写真2 洪水でため池の転倒ゲートに引っ掛けたナガエツルノゲイトウ（稻美町 新仏池）



写真3 失敗が繰り返される抜き取り作業。ナガエツルノゲイトウの確認場所に月ごとに色の違う印を付けた。（稻美町 天満大池）



写真6 畑に張った遮光シートの下で伸長するナガエツルノゲイトウ（桃色）とヒガンバナ（黄色）。光合成を阻止して兵糧攻めにする。（洲本市 本田池）



写真7 絶滅危惧種アサザの生育地を侵略するナガエツルノゲイトウ。放置するとアサザは絶滅してしまう。（稻美町 天満大池）